

自分の命を守る 防災意識

大規模な災害も多くなり、
穏やかな気候に包まれている池田。
その分、日頃からの災害への意識や備えは
十分でないかもしれない。
自分の家は大丈夫なのか、
もし災害が起こったら
どうすればいいのか……。
いま出来ること考えるべきことを、
池田市の危機管理課の
皆さんに尋ねた。



**大きな災害経験が少なく、
平穏で住みやすいまち池田**

昨年、1時間に約100ミリを超える
猛烈な雨が池田市を襲い、被害が出たこ
とは記憶に新しい。しかし、地形に恵まれ
ている池田。大きなダメージを受けた災
害はというと、水害においては昨年、そし
て平成6年9月6日と平成9年8月7日
の浸水被害の計3回のみだ。阪神・淡路
大震災での被害を数えても、全国的に見
て池田は、自然災害における罹災数が少
ないと言える。水害に関しては、平成6年
と9年の教訓を受け、雨を二時的に貯める
増補幹線等のハード整備が功を奏し、昨
年のゲリラ豪雨は、過去2回の水害と比
べると被害は軽減されている。



▲危機管理課のみなさん 左から、久光由夏さん・西村卓哉さん・四谷和義さん・小松 伸さん・吉村英敬さん・蓑原大輔さん

自宅周辺の地形や避難場所を
ハザードマップで
チェックしよう!



1 「池田市洪水ハザードマップ」& 「池田市防災マップ」を確認しよう

▼自分の家がどんな災害の対象か
洪水が起きた時、地震が起きた時、自分の住んで
いる地域は大丈夫なのか。地形そのものが家にと
のよつな影響を与えるかを、考える必要がある。

2 非常時の連絡手段を決めよう

▼災害用伝言ダイヤルや「災害用伝言板」、スマー
トフォン専用アプリ等、豊富な安否情報サービスの
中から何を利用するかを家族で話し合っておく
と安心。

3 非常持ち出し品、備蓄品を 今一度チェックしておこう

▼備蓄食料は7日分必要！
物資の輸送が困難になることを想定し、最低でも
3日間、可能な限り1週間分程度の備蓄品を、家
族の人数を計算しながら準備しておく。常備して
おかなければいけない薬なども確認しておく。

▼備蓄食料の消費期限は大丈夫？
備蓄食料を食べることも消費期限が切れ
ていたら、食事がとれない。食料や飲料水、乾電池、
カセットコンロのボンベなど、購入しては消費し、
使ったら補充する「ローリングストック法」で常備
しておく。

4 防災訓練をしよう

地域で年1、2回行われている
防災訓練。消防署等の協力を得
て実施している。災害発
生直後は、隣近所や地域
での助け合い、共助が
命を救う。日頃から
地域での防災力
を高めておく。



5 自分から積極的に情報を集めて、 より安全に避難しよう

いま起こっている災害や、自分がいる場所が安全か
どうか、災害情報や気象情報の収集を。避難情報も
「避難勧告」、「避難指示」など状況によって様々。

土砂災害にも警戒が必要。 1人ひとりが災害への意識を

大規模な豪雨があった場合、いま心配
すべきは土砂災害だ。「幸いにして池田市
は、津波や地盤に大きな不安がある環境
ではありません。ただ土砂災害について
は、五月山は我々の宝でもあります。危
険なレベルの雨が降ると、皆さんには注
意をして頂く必要があります」と、「池田
市市長公室」危機管理課の小松 伸さん
は話す。

自宅周辺の地形や避難場所を ハザードマップで確認しよう！

避難所一覧をはじめ、豪雨等による浸水
被害・土砂災害の危険のある場所等を示
した地図「ハザードマップ」の存在をご存
知だろうか。池田市では広報誌と同時配
布で全戸配布されている。「自分の家がど
のような災害に巻き込まれるかを、ご理
解頂くのが最優先です」と話す西村卓哉
さんによると、「ハザードマップ」で、まず
は自分の住んでいる地域・地形そのもの
が、自分の家の災害にどのような影響を
与えるかを確認しておくことが大切な
のだという。坂の上にある家でも、その
地形がすり鉢状ならば、大雨が降ると
そこに水が集中して床上浸水を起こ
す可能性もある。その場合、床下換
気の場合等に土嚢を積む等の対策を
しておけば、被害を最小限に抑えられ
る。土砂が危ないのなら、逃げる方向
はどちらか、山から離れるべきなの
か。地震や火災、風水害、それぞれ避
難場所も経路も違うため、事前に「ハ
ザードマップ」を見て、避難場所を確認
しておけば、いざという時に困らない。さ
らに、避難先で会えるよう、〇〇小学校
の体育館のバスケットゴールの下、のよ
うに、必ず避難場所のどこに避難するの
か、詳しく決めておいて欲しい。



池田市民の安
心・安全を見
守り、予防と
減災に繋が
る注意喚
起、そして
災害が起
こった場合
に、災害対
策本部とし
て陣頭指揮
を執ること
が、危機管理課
の役割だ。専門職
として指揮ができるよう、自衛隊で全国
各地の災害現場を経験してきた専門家
「危機管理監」を置いている。国や府も、危
険地帯の浸水想定区域や土砂災害の警戒
区域等、新たな危険区域の見直しを進め、
より詳細な情報を1度で把握できるよ
う、準備を進めている。行政の「公助」は心
強い限りではあるが、災害から自分や家
族の安全と命を守るには、自分だとい
うこと。つまり、自助を忘れてはいけない。

大規模な災害が起こればパニック状態
になり、情報も錯綜するかもしれない。事
前に自ら情報を取り、家族で共有してお
くことが、安全の確保と命を守ることに
直結してくる。この機会に家族で防災会
議を開き、話し合い、備えておこう。

取材協力
池田市 市長公室
危機管理課
〒563-8666
大阪府池田市城南1-1-1
☎072-754-6263 (直通)



久光由夏さん



副主幹
西村卓哉さん



副主幹
蓑原大輔さん



課長
小松 伸さん

池田の防災情報は
ここでゲット!

池田市役所の危機管理課の窓口では、パンフレットや「ハザードマップ」等、資料の設置のほか、災害についての質問・相談も受け付けている。また、自治会等の団体への出前講座、さらに自主防災組織が行う防災訓練も実施中。

